

推薦の言葉

薬学実務実習学生に評判が高いだけでなく、現場の薬剤師や薬学部教員にも好評である「ビジュアル薬剤師実務シリーズ全4巻」の改訂版が「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ上・下全2巻」として完成した。知識・態度を中心とした上巻と技能を中心とした下巻にバランスよく振り分けられている。監修は上村直樹先生と平井みどり先生で、初版では薬局実務と病院実務が別の巻であったが、薬剤師業務としては本来一つであるとの発想から2巻にまとまった。初版の特徴を継いでカラー写真やイラストをふんだんに用いて、さらに見やすく、また理解するのも容易になっている。薬学実務実習事前学習と病院・薬局実務実習のテキスト・参考書として、またOSCE対策として、薬学生にとっては心強い味方になるだけでなく、若手の薬剤師、実務実習指導薬剤師、薬学部教員にとっても大いに役立つ構成である初版の精神を引き継ぎ、さらにより有用なものとなっている。調剤技術などは動画をQRコードによりスマートフォンなどですぐに見ることができ、章末のCBT対策問題はQRコードを通じて解答と解説を見ることが可能で、共用試験対策にも役立つ。

新しい六年制薬学教育も開始からすでに7年が経ち、一見、順調に進んでいるかに見える薬学実務実習では実習施設間の格差が問題になっている。病院どうし、薬局どうしで打ち合わせているわけではないので、当然ながら実習内容に差が出てきているのは否めない事実である。このような問題に対しても、本シリーズが一つの標準的な実施例を示していることはおおいに期待できる。学生はこのテキストで学んで自信をつけ、一方、指導薬剤師と薬学部教員は教育内容に安心感を覚えることができる。実務実習事前学習と病院・薬局実務実習は日本唯一の最高の実習を施すのが目的ではなく、日本全国どの大学・実習施設においても均質の実習を展開することが最大の目的である。このシリーズの内容は実務実習実施方法の一つの例であることが大切である。薬学生が正しく患者さんに向き合うために必要な知識・技能・態度をわかりやすく示している。この実習内容を各大学、各病院、各薬局にて精査し、それぞれの施設にふさわしい実習内容を展開していただきたい。

薬剤師は薬の専門家であることは当然であるが、その上に薬の責任者であることが期待されている。このシリーズで薬剤師としての知識・技能・態度の基礎を身につけ、病院・薬局実務実習に参加することで、実務実習本来の目的である「患者さんに学ぶ」ことを求めて100%の力を発揮するものと信じている。

以上、本シリーズが薬学実務実習のテキストとして大きな役割を果たすものと確信して、推薦する。

2013年8月

薬学教育協議会 代表理事
東京理科大学薬学部 教授
望月正隆